

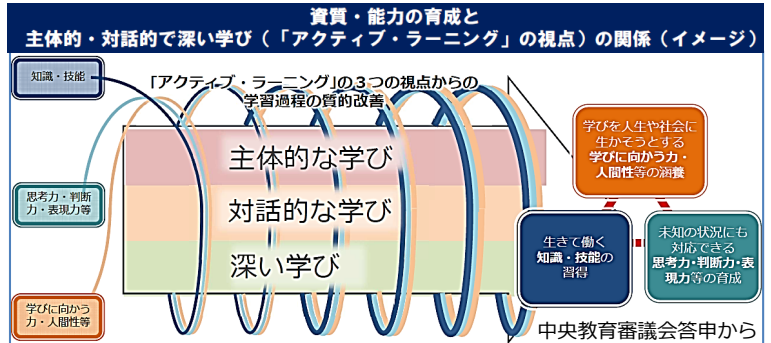
羅針盤

平成28年度第21号（通算272号）
平成29年1月20日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

子供たちに「主体的・対話的で深い学び」を①

昨年12月21日、中央教育審議会答申が出されました。この中で、「アクティブ・ラーニング」については、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために共有すべき授業改善の視点として明確に示されました。

羅針盤では、連続3回シリーズで授業改善の三つの視点（「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」）について解説するとともに、実践事例等を紹介します。第1回目は、「主体的な学び」についてです。



ポイント 「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で実現されていくことが求められます。

主体的な学び 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 中央教育審議会答申から ※下線：岡山県総合教育センター

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

「主体的な学び」を実現する子どもの姿(イメージ) (独)教員研修センター次世代型教育推進センター作成資料から

<p>興味や関心を高める</p> <p>例) 素朴概念を揺り動かす事象提示</p>	<p>見通しを持つ</p> <p>例) 対象を比較しながらのめあての提示</p>	<p>自分と結びつける</p> <p>例) 自分の問題として考えなくなる題材の提供</p>	<p>粘り強く取り組む</p> <p>例) 必要材料を手に入る学習環境</p>	<p>振り返って次につなげる</p> <p>例) 学びの手ごたえを実感する言語活動</p>
--	---	--	--	--

導入の実践例 中2理科「電流の性質」(導線の太さと電力の関係性を見い出す) 振り返りの実践例

◆課題と実験方法を知る場面で、教師は、消費電力の異なる2つの電球を点す演示を行った。その際、フィラメントの太さを比較させながら電力との関係について既習事項を想起させた。

◆生徒からは、電流や電圧の性質及び抵抗の関係に気付く発言やつぶやきが見られ、教師はそれらをつなぎながら、本時のめあてとして示した。その後、生徒は見通しを持ち意欲的に活動を行った。

・どちらが明るく光った？
・この違いは？

◆単元を通した学びを振り返らせるために、教師は、「新しく気付いたこと」「友達の見解で学んだこと」「今後の学習に生かしたいこと」等、振り返りの視点を示し、記述後に共有を図った。

◆生徒の記述は、「導線の太さによって電力の値が変わることが分かった」、「友達と意見を出し合いながらまとめていくことで考えが深まった」「モデル実験の結果とこれまでの学習を関連させて考察する方法を次の学習でも使ってみよう」等、学びの手ごたえが表れていた。

2月19日(日) 岡山県総合教育センター 開所10周年記念講演会
講師 文部科学省初等中等局視学官 田村 学 先生
演題 「次期学習指導要領における教育の方向性
～アクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善～」

申し込みは県センターWebページから